



上|中央ホール 下左|改修前 下右|イメージイラスト

## 園児にとっての豊かさとは何か？

### たばる愛児保育園

設計監理：一級建築士事務所 mino archi- lab + 一級建築士事務所 GAB 設計 JV

#### 保育園改修計画

沖縄県那覇市にある保育園の改修である。敷地は、大型ショッピングセンターをはじめ量販店、大規模県営住宅等の立ち並ぶ国道から一步入り込んだ利便性の高い近郊都市型地域の中にある。一方で、北西側前面道路の向かいには児童公園が隣接し、アクティブな保育行為をインフラが支える都市型の保育園としては恵まれた環境にある。

園の先生方からの要望として「園児が伸び伸びと保育園生活をおくれる楽しい園をつくって欲しい」「各年齢の適正な保育環境を園児に提供したい」等々、子ども達目線での園の環境づくりをテーマにして欲しいというものであった。

#### こどもの居場所をつくる

地下1階・地上4階建ての2階部分に保育園は位置しており、安全面上の配慮により地上から離れた構成をとっている。園自体の外部園庭は無く、その為、既設の園内の中心には200人ほど収容可能な大きなホールが設けられており(下左写真)、雨天時や保育園のプログラム、また公園の利用が困難である場合、子ども達の遊びの場として利用されてきた。2階平面は、そ

のホールを中心として外周に各年齢別の保育室ならびに各居室が配置される入れ子状の構成となっているため(図面参照)、ホールの果たす役割は非常に大きく、本改修計画における重要な位置付けともなっている。

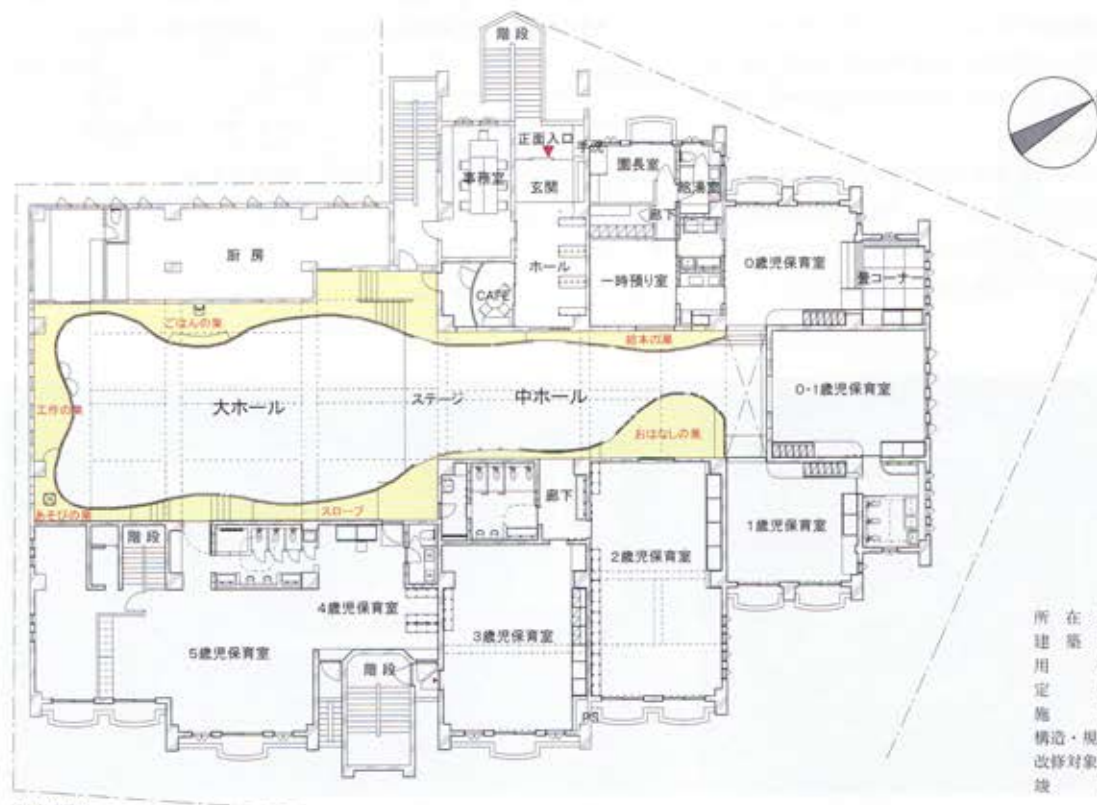
まず、設計コンペ段階で“こどもの居場所”をつくることを考えた(下右イラスト)。柱割で構成される若干無機質なホール空間に新たな曲線を一本加え、保育室とホールの中に小さな“空間=巣”をつかった。そこは子どもだけが立ち入ることを許される場所であり、彼らの隠れ家(遊具があり、絵本があり、落書きが出来る)となるような“楽しい場所”である。

新たに加える一本の曲線の構成については、内外の利用/関係、壁材(杉ルーバー)に至るまで実施設計段階において慎重に先生方と協議を重ね、木々の林立により構成される“見え隠れの森”は、子ども達個々の遊び場、情操教育を育む小さな場所、またお遊戯会の背景となる舞台装置、更には七夕・クリスマス会等の飾付の場として、使用を固定化しない自由な表裏を持つ媒体となっている。

改修後園内を見学させて頂いた際、我々の考察が及ばない子ども達の自由な遊びの発想には脱帽であった。



遊びの果



配設平面図

所在地 沖縄県那覇市田原  
 建築主 社会福祉法人たばる愛児保育園  
 用途 保育所  
 定員 120名  
 施工 GAB  
 構造・規模 RC造 地上2階部分・改修工事  
 改修対象床面積 802.30㎡  
 竣工 2013年8月